



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝 「㊟つくしまわりを ㊟がおてあいさつを ㊟ちんとくつならべ」

令和6年度 第4号
熊本市立植木小学校
令和6年4月19日
校長 東田 昌樹

「有名詩文の暗唱」…音読力、表現力の育成、子ども理解のために

本年度も校長室で「有名詩文」の暗唱テストを始めました。子どもたちは詩文を暗唱し、校長室にテストを受けにきています。(ひらがなの学習を始めたばかりの1年生はもう少し後になります。) 休み時間になると、子どもたちが校長室にやってきます。

長い行列になるのを避けるため、1・3・5年は月・水・金、2・4・6年は火・木・金に行くルールにしています。(金曜日はどうしても混雑しますが)

休み時間に外で元気に遊ぶことも大事です。何度も続けて校長室に来る子には「遊ぶのも大事だよ。これ覚えて遊んでおいで。」と言うこともあります。

詩文は熊本市の小学校国語研究会が作成した「日本語好きだ検」を使っています。タブレット上にあるデータの詩文を子どもたちは覚えています。目的は、次の2つです。



- 1 子どもたちに音読の力をつけ、文章の素養をつくることで表現の力をつけること。
- 2 子ども理解をすること。

暗唱するためには、必然的に音読をすることになります。文章をすらすら読めるようになることは、国語をはじめ、すべての教科等にとって大切な基礎学力です。

また、暗唱により、有名詩文の持つ日本語の文体やリズムを子どもたちが体得します。そのことが子どもたち自身の表現である、「話すこと」や「書くこと(作文)」に生きてきます。

例えば、右の詩文があります。2年生の詩文です。金子みすゞの「お日さん、雨さん」という詩です。声に出して読んでみるとわかりますが、「七五調」になっています。七音と五音の組み合わせでとてもリズムカルです。このような文体を子どもたちは味わい、その文体を自分の表現に生かすようになるということです。

ノーベル賞物理学者の湯川秀樹、元総理大臣の田中角栄、易学者の安岡正篤をはじめ、暗唱が素地になっている著名人も多くいます。

もう一つの目的として、暗唱で子どもたちが校長室に行くことにより、私自身が子どもたちを理解することができるということです。校長室にはいろいろな子どもたちが来ます。

- 「ほとんど覚えていなくても笑顔で挑戦する子」「完全に覚えていないと心配で挑戦しない子」
- 「はきはきと堂々と唱える子」「小さな声で私が耳をそばだててやっとな聞こえる子」
- 「一人で何度も挑戦する子」「友達と一緒にだったら挑戦する子」
- 「『ありがとうございます』としっかり言える子」「だんだんあいさつが上手になってくる子」

全校の子どもたちの様々な面を見ることが出来る機会です。担任の先生に校長室での子どもたちの頑張りを伝えることもできます。

お日さん、雨さん
金子みすゞ

ほこりのついた しば草を
雨さんあらって くれました。

あらってぬれた しば草を
お日さんほして くれました。

こうしてわたしが ねころんで
空を見るのに よいように。

【本校の教育目標】

気づき・考え・行動する自立と共生の力を備えた子どもの育成
～ どの子も大切にされ、どの子も成長する学校をめざして ～

